

Ⅲ 関係機関の取組等

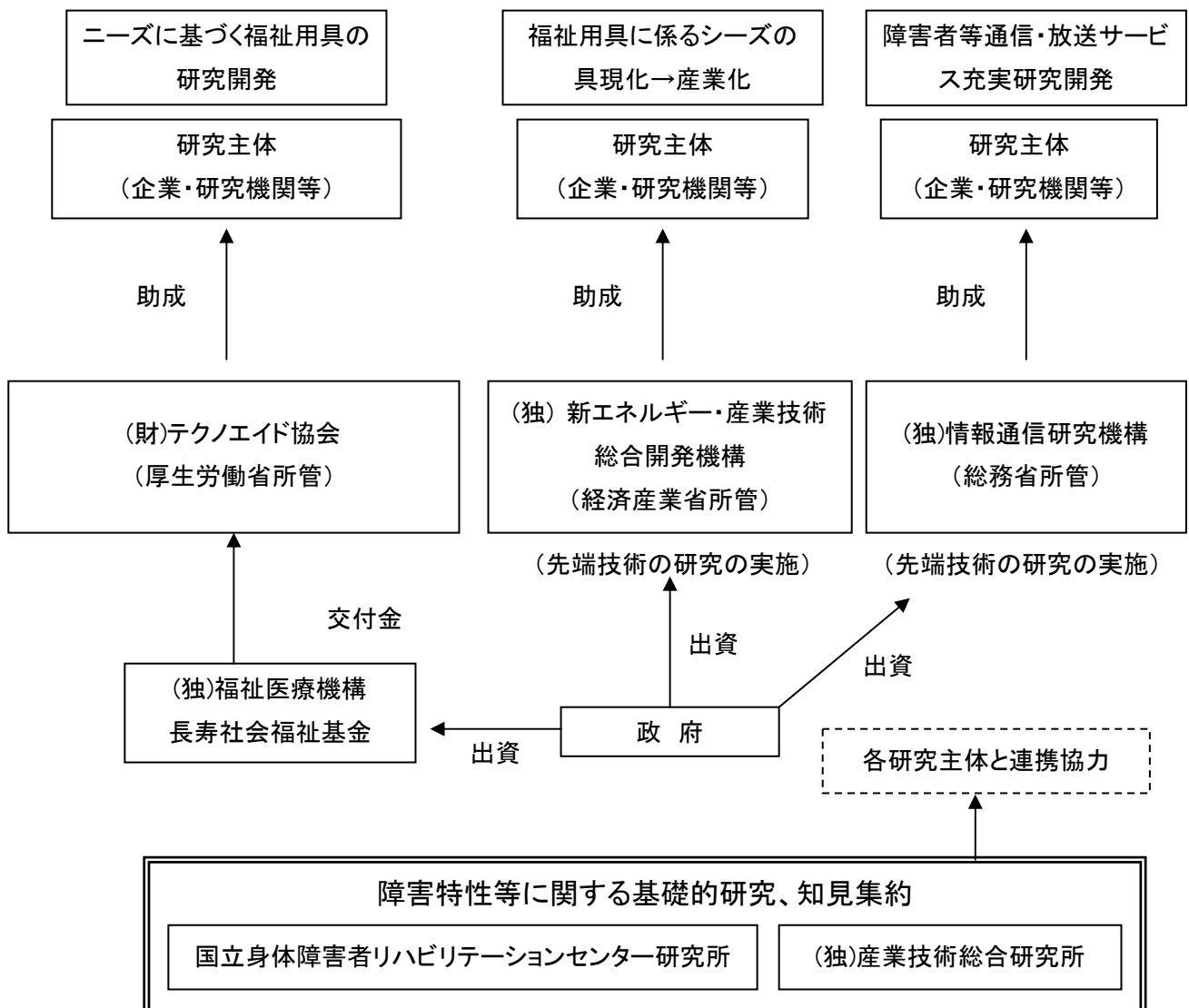
○ 支援機器の研究開発や普及促進については、関係機関が連携し、取り組みを進めているところである。

1. 支援機器をめぐる関係機関

【普及啓発等】

(財)保健福祉広報協会	(国際福祉機器展による広報・普及等)
(社)シルバーサービス振興会	(シルバー産業の適性評価・利用者への情報提供等)
(財)テクノエイド協会	(福祉用具に関する情報の収集及び提供等、普及の促進)

【開発支援等】



2. 財団法人テクノエイド協会

目的

- 福祉用具の研究開発等の推進、福祉用具の試験評価、情報の収集及び提供並びに義肢装具士の養成等を通じ、障害者及び高齢者の福祉増進に寄与すること。

研究開発の推進

- 「福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律」に基づき、独立行政法人福祉医療機構より交付金を受け、企業・研究機関等への助成 → 採択率14.2% (267/1877) 実用化率55% (116/267)

採択条件

開発メーカーは小規模業者も多く、潤沢な研究開発費がない場合が多い。助成によって本当に障害者のためになるアイデアが実用化されるものという観点から審査している。

- ・ 新技術・新材料を利用した研究開発
- ・ 既存技術・既存材料を応用した研究開発
- ・ 既存製品(外国製品を含む。)の改良研究開発
- ・ 単機能製品を組み合わせた新システム製品の研究開発 等

- 公募方式 → ニーズに応じるため、重点テーマを設置

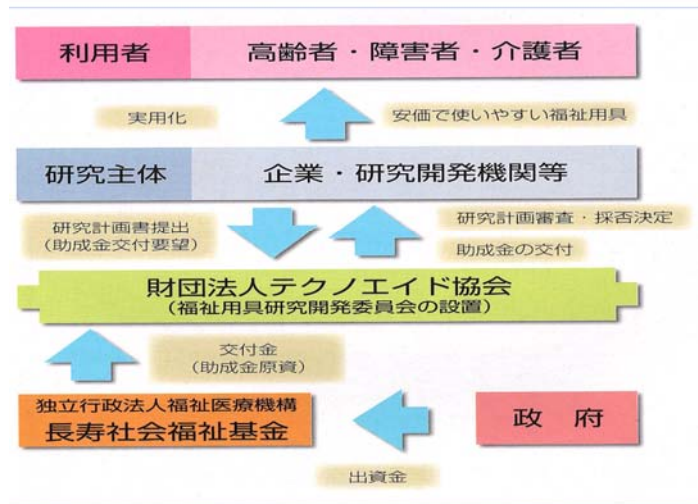
- 指定課題方式→福祉用具適合性・実証研究会での検討結果を踏まえた研究開発の推進

- 指定課題について

- ・ 開発重点戦略等を作成し、これに沿った課題設定とするなどの取り組みが必要ではないか。

- 実用化事例

研究開発助成事業の流れ



「第4回勉強会資料
((財)テクノエイド協会事務局長 本村光節氏)」より

寝たきり高齢者や重度障害者向け「視覚シンボルや登録文章により意思伝達を支援する装置」



ハートアシスト

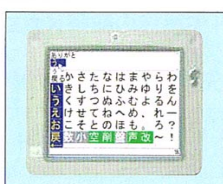
失語症言語訓練用動画教材ソフトウェア



言葉の散歩2005

●対応OS:Windows 2000/XP

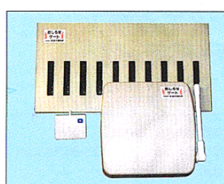
肢体不自由のための携帯型コミュニケーション装置



携帯型会話補助装置
「モバイル伝の心」

●情報携帯端末: FLORA ie56miNR3
●対応OS: Windows XP Professional

在宅において痴呆性高齢者の外出行動(徘徊)を知らせる無携帯型検知システム



おしらせゲート

●IDリーダー サイズ:125×120×30mm
重量:250g以下
●IDタグ サイズ:30×43×7mm
重量:5g
●充電器 サイズ:250×120×35mm
重量:2kg以下

「第4回勉強会((財)テクノエイド協会事務局長 本村光節氏)」より

情報の収集と提供

- TAIS(福祉用具情報システム)の整備・運用
→ 企業情報565社、福祉用具情報6,082品目
- 補装具製作(販売)業者情報提供システムの構築

人材の育成

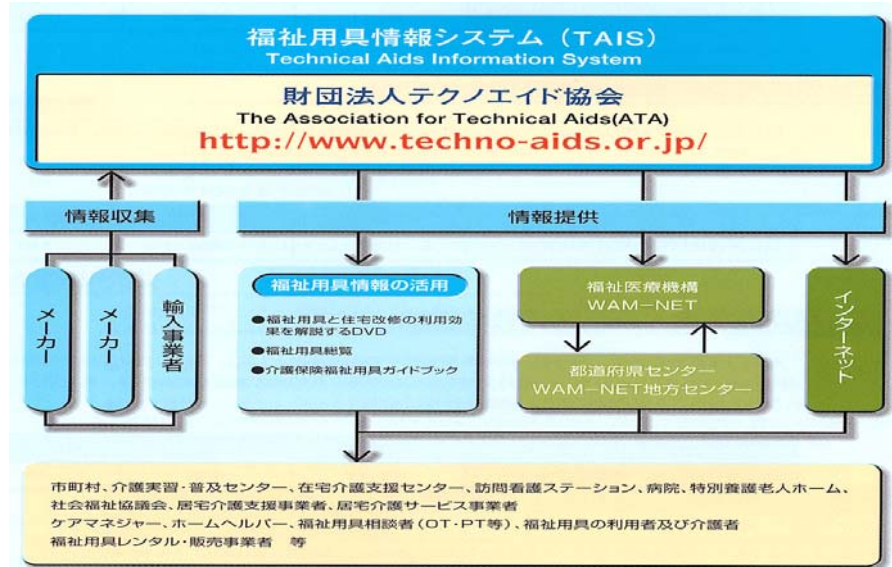
- 義肢装具士国家試験の実施
- 認定補聴器技能者試験等の実施(合格者累計1,437人)
- 認定補聴器専門店の認定(H19.4現在467店)
- 福祉用具プランナーの養成(9,034名)H19年度改善で履修時間等の増加

調査研究

- 完成用部品のDB化に関する調査研究 39社 3,361点
- 情報支援機器利活用に関する調査研究(視覚、聴覚)→開発戦略等の検討
- 介護施設における腰痛対策としての福祉用具活用調査研究→介護サービスのあり方研究
- 感覚器障害戦略研究

今後のビジョン

- 研究開発
 - ★臨床評価の実施
 - 利用効果(製品効果)の検証
 - ニーズとシーズが融合した製品開発
 - 製品の改良
 - ★戦略的な研究開発
 - 情報支援機器、技術についても今後の重点課題として、戦略的に開発費を使用することを検討
- 情報提供
 - ★臨床的評価情報の提供
 - 安全性や操作機能性に関する情報提供
 - 利用者の状態像に即した福祉用具の利用促進
 - ★適合に関する専門情報の提供
 - 対象、効果、調整方法、使用条件等の情報発信
- 人材養成
 - ★上級福祉用具プランナーの養成



「第4回勉強会((財)テクノエイド協会事務局長 本村光節氏)」より

★認定補聴器技能者における養成課程の再検討

専門職の質の向上

福祉用具の適正な利用と供給を推進

○ 調査研究等

★ISO(TC173 SC2(用語と分類))

★JIS(T0102:1998(リハビリテーション機器部門))

障害者特性を踏まえた国際標準化等の推進

3. 独立行政法人 福祉医療機構

基金による助成

○ 助成制度の目的: 民間の創意工夫を活かした社会福祉を振興するための事業に対する支援を行い、高齢者・障害者の在宅福祉、子育て支援、障害者スポーツの振興等の推進を図る。

- ・ 助成区分・・・一般、特別、地方、交付金の4区分
- ・ 助成対象事業

4～5のテーマを設定(毎年度の見直し)

制度改革等に応じた重点助成分野の設定

- ・ 審査体制

外部有識者(30名以内)からなる基金事業審査・評価委員会の審議によるもの

今後のビジョン

○ 基金事業のあり方に関する検討会の提言を受け、下記を構想。

- ・ 直轄事業の拡大
- ・ 優良事業の発信
- ・ 事業成果の普及(データベース化、成果物の管理、ライブラリー創設)

4. 社団法人 シルバーサービス振興会

事業内容

- 業種横断的に国内主要企業が参加(203社)
- シルバーマーク制度
- 福祉用具の消毒工程管理認定制度
- 研修事業(介護保険系の事業従事者研修、各種テキストを標準化して出版)
- 利用者への情報提供(上記3点等について HP 等を通じて情報提供)
- 健康長寿のまちづくりへの取組
 - ・ 高齢者・障害者の観光円滑化のためのソフト対策に関する調査等

今後の課題

- 商品・価格情報の提供、選択支援体制の確立
- 福祉用具と居住環境整備との一体的運用
- 自助、共助、公助の組み合わせによる高齢者、障害者への生活支援
 - ・ 公的制度以外の、特に民間ファイナンスの仕組みの構築
 - ・ 特に検討しているのは、利用者の負担を軽減する仕組みの構築ができないかということで、リバースモーゲージ(所有する不動産を担保とした年金制度)等、利用者の選択の幅を広げ、公的保